

【NA】成人看護学実習(急性期)		看護学科		3年前期			
		3単位	必修	実習	135時間		
教員	大澤 伸治・棚橋 千弥子・安藤 洋子・柴田 由美子・栗原 美和						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	大澤伸治(看護師10年), 棚橋千弥子(看護師16年), 安藤洋子(看護師28年), 柴田由美子(看護師9年), 栗原美和(看護師20年)						
授業内容	急性期あるいは回復期にある対象とその家族の特徴を理解し、問題解決のため対象に応じた看護を計画的に実践・評価する能力を養う。						
授業方法	少人数のグループとなって学外の各医療機関において実習を行う。学生1～2名につき周手術期にある対象1人を受け持つ。臨地実習指導者ならびに大学教員の指導を受けて行う。						
到達目標	知識・理解	急性期あるいは回復期(含周手術期)にある対象とその家族の状況を述べることができる。			○		
	思考・判断・表現	対象の健康障がいより生じた課題を把握し、回復過程に応じた看護過程を展開できる。			○		
	技能	看護計画に基づいて看護援助を実践できる。			○		
	関心・意欲・態度	・医療メンバーの一員として、自己の役割を理解し責任を持って行動できる。 ・学生として適切な態度で実習に臨むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		16	24	-	-	40
	看護援助技術		-	-	20	-	20
	実習態度		-	-	-	30	30
	自己学習		-	-	-	10	10
合計(点)		16	24	20	40	100	
評価の特記事項							
テキスト	『DIGITAL NURSINGRAPHICS』メディカ出版						
参考書・教材	『人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ』1～5巻 医学書院 『病気が見える』1～7巻 MEDIC MEDIA 『看護診断ハンドブック 11版』 医学書院						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>第1週：周手術期に行われる特徴的な看護実践を知り、その意味を理解する。 1) 学生1～2名で周手術期にある対象1名を受け持ち、看護過程を展開しながら対象の看護について学ぶ。</p> <p>第2週：周手術期にある対象者の特徴を知り、看護過程の展開ができる。 1) 周手術期における対象を理解し、回復過程を促進する看護を考え、適切な援助の提供及び評価・修正を行う。 2) 対象のおかれている状況を総合的に捉え、手術によって変化した日常生活行動への援助を理解する。</p> <p>第3週：実習での体験を整理し、他者と共有することで急性期看護についての学びを深める。 1) 看護過程の展開を継続し、自分の実践について評価する。 2) 看護過程について振り返り、カンファレンスにより学びを共有する。</p>						
時間外での学修	対象の変化が著しい領域であるため、解剖生理学、病態学、周手術期における対象の理解などの事前学習を十分に行う必要があります。						
受講学生へのメッセージ	対象の身体的情報のみに関わることなく精神的・社会的側面にも目を向けてください。机上の知識を実践と結びつけることができるよう積極的に実習に臨んでください。 オフィスアワーは、別途連絡します。 特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出て下さい。						

【NA】 老年看護学実習Ⅱ		看護学科		3年通年			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	松原 薫・松波 美紀・吉川 美保・水上 和典						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	松原薫（病院看護師・30年）・吉川美保（病院看護師5年）・水上和典（病院看護師5年）						
授業内容	施設で生活する高齢者との関わりを通して老年期の特徴、施設における看護の役割を理解する。高齢者を支える多職種の役割、連携を理解し、高齢者に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。						
授業方法	施設において実習を行う。臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。						
到達目標	知識・理解	高齢者の特徴を統合的に理解し、生活を支える職種の役割について理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	疾患や身体機能・認知症機能の加齢変化の把握とともに、これらが生活に及ぼす影響について考え必要な看護援助を理解することができる。			◎		
	技能	高齢者の状況や個性に配慮した日常生活支援技術、コミュニケーション能力を獲得することができる。			△		
	関心・意欲・態度	人生の先輩である高齢者を尊重し、看護学生として適切な態度や行動がとれる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		20	20	5	-	45
	対象との関わり		10	10	5	-	25
	実習態度		-	-	-	30	30
	合計(点)		30	30	10	30	100
評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学実習評価表に基づき評価する。</li> <li>・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。</li> <li>・提出物は指示期限内の提出を必須とする。</li> </ul>						
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①・②』メディカ出版						
参考書・教材	適宜提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>「事前学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の仕組み、サービスの種類と特徴を復習する。</li> <li>・実習施設の役割やそこで働く看護師および他職種の役割について復習する。（4h）</li> </ul> <p>「臨地実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険施設での実習を通して老年看護援助の実際を知る。</li> <li>・高齢者を取り巻く保健医療福祉チームについて学び、連携・協働を理解する。</li> <li>・高齢者とのコミュニケーションを通して、言動の意味を考え高齢者を理解する。</li> <li>・カンファレンスを通して、実習体験を共有し学びを深める。</li> </ul> <p>「実習のまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習最終日はグループ毎に施設における看護の実際について資料を作成し、プレゼンテーションを行い学びの共有を図る。</li> </ul> <p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の実習内容はその日のうちに記録し、翌日提出する。（2h/日）</li> <li>・施設における看護の目的、役割、高齢者の生活上の支援について学んだ内容を整理する。（2h）</li> </ul> <p>詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>						
時間外での学修	既習の学習内容を復習、整理して実習に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしましょう。特別な配慮が必要な学生は申し出てください。オフィスアワーは、実習オリエンテーション時に通知します。						

【NA】在宅看護論実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	北村 美恵子・井倉 一政・御田村 相模・長谷川 真子						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	北村：病院看護師11年、訪問看護師・介護支援専門員4年、長谷川：市町村保健師26年、井倉：市町村保健師8年、御田村：市町村保健師12年・訪問看護師3年、						
授業内容	保健・医療・福祉のケアニーズを持つ人々が住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるようにするために、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種の連携・協働を理解し、看護の役割を実践するための能力と態度を学ぶ。						
授業方法	訪問看護ステーションでは、看護師の訪問に同行シケアの見学および介助を行う。訪問事例は5例以上経験し、そのうち1事例は継続事例とする。継続事例については、カルテやケアプラン、訪問を通して情報を収集し、療養者およびその家族の問題や望みを明らかにする。さらに、全体像を関連図にまとめ、プレゼンテーションを行う。地域包括支援センターでは、相談・調整・訪問活動の見学、地域ケア会議や介護予防事業に参加する。						
到達目標	知識・理解	(1)在宅看護の特徴について理解できる。 (2)在宅療養者を介護する家族への支援の必要性が理解できる。 (3)在宅療養を支える地域の社会資源について理解できる。 (4)地域包括支援センターの機能と役割が理解できる。 (5)地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種との連携・協働の必要性と看護職の役割が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	(1)在宅療養者の健康障害と生活機能、介護状況の観点から、療養上の問題および望みを明らかにすることができる。 (2)情報を統合し、全体像を関連図に表すことができる。 (3)実習を通して、自己の健康観、看護観を育むことができる。			◎		
	技能	(1)療養者や家族の価値観や考え方を尊重した態度で接することができる。 (2)訪問において礼儀と節度を保つことができる。			○		
	関心・意欲・態度	(1)実習目的・目標に関する学びを深められるよう、主体的に取り組める。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		30	35	-	-	65
	対象を尊重した態度		-	-	10	-	10
	訪問マナー・礼節		-	-	10	-	10
	実習に対する積極性(言動)		-	-	-	5	5
	カンファレンスでの発言		-	-	-	5	5
自己学習		-	-	-	5	5	
合計(点)		30	35	20	15	100	
評価の特記事項	在宅看護論実習評価表に基づいて評価し、臨地実習指導者の意見も参考にします。実習評価を受けるには、提示した期限内に実習記録を提出することが必須です。						
テキスト	『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第5版』 臺 有桂、石田 千絵、山下 留理子編集 メディカ出版ISBN:978-4-8404-4921-2						
参考書・教材	講義資料						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～10	1日目：学内オリエンテーション 2日目～9日目：訪問看護ステーションにて実習 ※実習3日目～8日目の間で1日は、地域包括支援センターにて実習を行う。 10日目：学内まとめ  ※具体的な実習目標や実習内容および方法は、実習要項を参照してください。						
時間外での学修	介護保険制度の知識は必須ですので、しっかりと理解しておきましょう。訪問看護ステーションで同行訪問する前には、療養者が抱える病や施されている医療処置について必ず自己学習を行ってください。自己学習は評価の対象とします。						
受講学生へのメッセージ	病院実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを深めてください。また、自宅に訪問させていただくため、病院での実習に比べ緊張が高いと思いますが、笑顔と挨拶を忘れず、看護学生として身だしなみや言葉使いなど良識ある言動がとれるようにしましょう。オフィスアワーは実習前に連絡します。特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出てください。						

【NA】小児看護学実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	鉾原 直美・清水 美恵						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	鉾原：病院看護師10年、清水：病院看護師10年						
授業内容	保育園児との関わりを通して、子どもの成長・発達やその特徴を学ぶ。小児病棟では、入院中の子どもの疾患、治療、成長・発達、生活、家族の状態を総合的に理解し、子どもとその家族のニーズを踏まえ、個別性に応じた看護を展開することができる基礎的な能力を養う。						
授業方法	1. 保育園（4日間）：年齢の違う2クラスを受け持ち、園児との関わりを通して、各発達期の子どもの特徴をまとめ、学生間で学びを深める。 2. 小児病棟（4日間）：学生1～2名で1名の患児を受け持ち、患児とその家族に対し、看護過程を展開する。 3. 学内実習（2日間）：評価面接、記録の整理を行う。						
到達目標	知識・理解	<保育園> 各発達期の子ども成長・発達の特徴を理解する。 <小児病棟> 1. 患児の成長・発達を踏まえ、健康障害のある患児とその家族に必要な看護を理解する。 2. 患児とその家族の権利や尊厳を守るための援助方法と看護師の役割を理解する。 3. 検査・処置が患児とその家族に及ぼす影響と看護の役割について考察できる。			◎		
	思考・判断・表現	<保育園> 実習を振り返り、子どもとの関わりを通して自己の子ども観を述べるができる。 <小児病棟> 実施した看護を振り返り、小児看護の役割を理解し、自己の小児看護観をまとめることができる。			△		
	技能	<保育園> 子どもを取り巻く危険因子を捉え、安全面に配慮した援助を行うことができる。 <小児病棟> 安全・安楽に配慮し、患児の病状や成長・発達に応じた援助を行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	<保育園> 保育園で過ごす子どもに関心を持ち、子どもを幅広く理解しようと積極的に取り組むことができる。 <小児病棟> 患児とその家族に関心を持ち、患児とその家族がよりよい生活を送れるように積極的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録（保育園）		15	5	5	5	30
	実習記録（小児病棟）		35	5	5	10	55
	指導者（小児病棟）		10	-	5	-	15
	合計(点)		60	10	15	15	100
評価の特記事項	実習記録85%、指導者評価15%の合計100%で評価する。 小児看護学実習評価表に基づき、評価する。評価にあたり、実習指導者の評価および意見を参考にする。						
テキスト	『デジタルナーシング・グラフィカ31・32・33巻 メディカ出版』中野 綾美（編者） 株式会社 メディカ出版						
参考書・教材	授業での配布資料及び必要時提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	小児看護学実習要項 参照						
時間外での学修	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護演習、事前学習の内容を十分復習し、実習に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	子どもとの関わりを通して、成長・発達の特徴についての理解を深めましょう。子どもの目線に合わせて、子どもが伝えようとしていることを感じ、受け止め、子どもの人権を尊重した看護実践を学んでください。実習中困ったことは、必ず教員や指導者に相談してください。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。 オフィスアワーはI号館106・325研究室 金曜日16：30～17：30						

【NA】母性看護学実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	緒方 京・戸村 佳美						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	緒方京（産科病棟における助産師勤務7年・市町村における母子保健事業6年） 戸村佳美（産科病棟における助産師勤務経験9年）						
授業内容	女性にはライフサイクルに応じた年代ごとの特徴的な健康問題があり、さらに成熟期の妊娠・出産に伴って母親および家族は心理的・社会的変化が大きく健康障害をおこりやすい。この授業では既習講義で学んだ母性の特徴を踏まえて、産科病棟および地域において対象およびその家族に応じた母性看護が実践できる基礎的能力を習得するとともに、地域の特徴と看護職による援助の必要性を理解する。						
授業方法	1. 産科病棟において妊産婦・褥婦および新生児を受け持ち、看護過程を展開しながら指導者と共に看護援助を実施する。またその他に、外来および病棟における看護援助や保健指導の見学を行う。 2. 保健センターにおいて市町村の母子保健活動を見学する。						
到達目標	知識・理解	対象である母子の妊娠・分娩・産褥期および新生児期における健康状態について科学的根拠に基づいて理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	対象である母子をとりまく環境や家族役割、心理的特徴を理解し、ニーズに即した個別性のある看護援助を実施することができる。また、地域母子保健システムと社会資源について考え、地域において生活する母子およびその家族を支援する必要性を考え、看護職としての母子を支援していく上での自己の課題を述べることができる。			◎		
	技能	周産期における母子および家族の人権を尊重し、プライバシーに配慮した態度で、安全・安楽な看護援助を実施し報告することができる。			○		
	関心・意欲・態度	周産期医療における看護師としての役割や協働の姿勢を養うことができる。また、積極的に学修に取り組むことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	記録物		20	20	10	-	50
	課題レポート		-	10	-	-	10
	実践		-	-	15	-	15
	実習態度・カンファレンス		-	-	-	10	10
	面接		10	5	-	-	15
合計(点)		30	35	25	10	100	
評価の特記事項	母性看護学実習評価表に基づき評価する。尚、実習評価を受けるには、指示した期日内のレポート（実習記録）提出を必修とする。評価にあたり臨地の実習指導者の意見も参考にする。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 母性看護学①母性看護実践の基本』横尾京子 中込さと子 荒木奈緒 メディカ出版 『デジタルナースング・グラフィカ 母性看護学②母性看護技術』横尾京子 中込さと子 荒木奈緒 メディカ出版						
参考書・教材	必要な資料は実習前オリエンテーションで配布します。また、実習先の施設において自由に閲覧できる参考書を準備します。母性看護援助論・母性看護演習で各自に既に配布されている講義資料は参考資料として使用します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
実習内容と進め方	<p>1. 事前学習 実習開始前に提示された課題に取り組み、実習に臨む。</p> <p>2. 産科病棟実習 1) 妊産婦および新生児を受け持ち、看護過程（情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価修正）を展開する。 2) 以下の妊産婦および新生児との関わりや看護ケアを見学、実施する。 （1）妊婦への看護ケア（母親学級、NSTモニター装着、レオボルド触診法） （2）産婦への看護ケア（分娩各期の看護、胎児付属物の観察・計測） （3）新生児への看護ケア（出生直後の観察・計測、点眼、沐浴、哺乳） （4）褥婦への看護ケア（授乳指導、退院指導、沐浴指導、育児技術習得への指導） （5）その他（NICU見学、産後2週間健診、産後1ヶ月健診） 3) カンファレンスにより学びを共有する。 （1）基本的には毎日実施し、一日の学びと翌日の課題を明確にする。場所・時間については当日決定する。 （2）カンファレンステーマはその都度決定する。実習最終日のカンファレンスでは「実習4日間の学びと今後の実習への課題」について話し合う。</p> <p>3. 保健センター実習 1) 母子およびその家族と関わり、市町村における母子保健事業および看護の実際を見学する。 見学する事業は、乳幼児健診・家庭訪問・乳幼児相談・母子健康手帳交付などである。 2) 母子保健事業以外に、女性が活用できる市町村保健サービスを見学する。 3) カンファレンスにより学びを共有する。 （1）基本的には毎日実施し、一日の学びと翌日の課題を明確にする。場所・時間については当日決定する。 （2）カンファレンステーマはその都度決定する。家庭訪問や育児相談など母子保健事業で体験した事例については、詳細を具体的に提示し、カンファレンスで学びを深める。</p> <p>4. 学内実習 臨地実習で学んだことを記録に整理してまとめ、実習最終日に記録を提出する。</p>						

時間外での学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に必要な基礎的知識（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護に関する知識、地域母子保健に関する知識）の確認・強化を行う。</li> <li>2. 事前に提示する産褥期の看護過程における紙上事例のアセスメントに取り組む。</li> <li>3. 母性看護における看護技術の学内演習に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦への看護（レオポルド触診法、腹囲と子宮底長の測定、胎児心音聴取）</li> <li>2) 褥婦への看護（子宮復古の観察方法、授乳のポジショニングと介助方法）</li> <li>3) 新生児への看護（沐浴、バイタルサイン測定、身体計測、全身の観察）</li> </ol> </li> <li>4. 既習した母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護演習で学んだ内容を十分復習する。</li> </ol>
受講学生へのメッセージ	<p>女性が新しい命を生み出す逞しさや神秘、新生児の生命力を全身で感じられる実習になることを期待しています。オフィスアワーは実習学内日の9時～12時小児母性看護実習室とします。特別な配慮が必要な学生は担当教員まで申し出てください。</p>

【NA】精神看護学実習		看護学科		3年通年			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	酒井 和美・北 恵都子						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	酒井（病院看護師32年）						
授業内容	既習した知識・技術を活用して、こころを病む人とその家族への看護過程を展開して精神科看護の基礎的実践力を習得する。						
授業方法	精神科病棟において対象者との治療的対人関係を形成発展させ、対象者の看護問題を把握し、立案した看護計画に沿った看護援助を行う。						
到達目標	知識・理解	対象の発達段階、社会的背景、健康状態がアセスメントできる。			◎		
	思考・判断・表現	アセスメントの基づいた個別的な看護計画の立案・実践・評価ができる。治療の場で対象と看護師との治療的関係性が捉えられる。			◎		
	技能	実習記録を通し患者の全体像が把握でき、適切な看護提供が行える。対象を取り巻く保健医療福祉チームな役割が理解でき、協働できる。			○		
	関心・意欲・態度	看護専門職業人としての役割を認識し、真摯に実習に取り組める。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	臨地実習		20	30	20	15	85
	事前学習課題		15	-	-	-	15
	合計(点)		35	30	20	15	100
評価の特記事項							
テキスト	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』代表著者 武井麻子 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』代表著者 武井麻子 医学書院						
参考書・教材	エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 川野雅資編著 中央法規出版(株) ISBN978-4-8058-3089-5 パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版 萱間真実編集 (株)照林社 ISBN978-4-7965-2341-7						
内容							
実施回	授業内容・目標						
2週間 (10日間)	精神科病院において、受け持ち患者を対象として看護過程を実践する。 実際の治療の場で患者-看護師の治療的関係を構築する。 対象を取り巻く精神保健医療福祉チームを理解し、協働する。						
時間外での学修	既習した精神疾患とその症状、精神科病院での入院形態・関連法規など復習してきてください。						
受講学生へのメッセージ	精神障害者の「生きにくさ」を理解し看護がどのように開けばより質の高い生活が獲得できるのか考え、積極的に臨地実習に取り組んでください。 実習中疑問に思ったことや分からないことがあれば適宜質問してください。 特別な配慮が必要な学生は担当教員に申し出てください。						

【NS】救急看護・災害看護		看護学科		3年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	和田 孝						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	看護師経験30年、救急看護経験14年						
授業内容	救急および災害時の状況特性、看護の役割について理解する。具体的には、救急看護では救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置、心肺蘇生法（一次救命処置）の知識と技術を、講義と実技で理解します。災害看護では、災害と健康障害の特徴および災害医療・災害看護の現状と看護職の役割を理解し、災害支援活動およびトリアージ、応急処置、必要な技術に理解します。						
授業方法	救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置については、画像や事例を用いて理解できるように進めていきます。心肺蘇生法は、講義と実技で修得します。災害看護・災害医療については、画像や過去の事例を用いて理解できるように展開していきます。災害トリアージについては、机上シミュレーションで学習します。						
到達目標	知識・理解	救急医療・救急看護の特性と役割、現状について理解でき、救急患者に起こりうる急性症状の身体所見と治療処置について理解できる。 災害看護・災害医療の基礎的知識・災害サイクルに応じた看護支援活動を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	救急受診する患者・家族の精神的状況を理解して問題解決に向けたケアができる。 災害時に傷病者を適切にトリアージ（緊急度）する判断能力を修得することができる。			○		
	技能	エビデンスに基づいた一次救命処置（BLS）が実施できる。 災害時のSTART式トリアージ法を理解して実施できる。			△		
	関心・意欲・態度	救急医療の現状問題を理解のもと、どのように地域社会と連携することが患者・家族のためになるか興味を持ち学修に取り組むことができる。 災害発生時に看護師として何を優先して活動するのか考え興味を持つことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	10	-	-	70
	OSCE（客観的臨床能力試験）		-	-	10	10	20
	災害机上シミュレーション		-	5	-	5	10
	合計(点)		60	15	10	15	100
評価の特記事項	テキスト						
参考書・教材	必要な資料は、事前に資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	救急医療の現状、救急医療体制、救急看護の特徴と役割について考える 〔準備・課題〕自分が想像する救急医療・看護について考える(4h)						
2	救急患者の急性期症状と看護ケア（呼吸器系、循環器系、中枢神経系、体温異常） 〔準備・課題〕呼吸器系、循環器系、中枢神経系の解剖学の復習(4h)						
3	救急患者の急性期症状と看護ケア（消化器系、体液・代謝異常、外傷、熱傷、中毒） 〔準備・課題〕消化器系の解剖学の復習(4h)						
4	災害の定義、種類、災害医療の特徴（CSCATTT）、災害サイクルに応じた看護支援、災害時に特徴的な病態 〔準備・課題〕過去に発生した災害について情報収集(4h)						
5	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） 〔準備・課題〕災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)						
6	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） 〔準備・課題〕災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)						
7	一次救命処置の手順とエビデンス 〔準備・課題〕一次救命処置の手順内容の予習(4h)						
8	一次救命処置の実際（演習） 〔準備・課題〕一次救命処置の動画を閲覧しておく(2h)						
時間外での学修	災害机上シミュレーションでは、災害トリアージとCSCATTTを理解していることを前提にグループワークを進めていきます。復習をしておいてください。						
受講学生へのメッセージ	救急患者は、病棟や施設に関係なく24時間発生します。すべての看護師は、健康状態が急激に悪化した人を救うための知識や技術を習得しておく必要があります。また、いつ起こるかかわからない大規模災害時に病院・施設でどのような行動をとるのかグループワークで楽しく学びましょう。 特別な配慮が必要な学生は申し出てください。 オフィスアワーは、講義前後の休み時間に教室で質問等を受付けます。						



【NS】終末期看護論		看護学科		3年前期		
		1単位	選択	講義	15時間	
教員	棚橋 千弥子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	病院看護師16年					
授業内容	終末期の考え方、終末期にある対象者およびその家族に対して終末期看護のあり方について学ぶ。また学習者自身が「死」について考える機会を設けることによって、終末期を迎えた対象者への具体的なかかわりを考えることができるようになる。					
授業方法	講義を中心に事例学習・ディベートなどで自己の考えを表現できるようにする。					
到達目標	知識・理解	終末期とは、どのような時期であるかを理解できる。終末期におとずれるであろう様々な苦痛に対して理解し、それらに対する援助を考えることができる。			◎	
	思考・判断・表現	その人らしさとは何であるかを理解することができ、それらを考慮した看護を考えることができる。さらに自己の考えを表現できる。			○	
	関心・意欲・態度	終末期看護に関心を示し、主体的に学修にのぞむことができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験	50	-	-	-	50
	事例学習	10	10	-	-	20
	ディベート	-	10	-	20	30
	合計(点)	60	20	-	20	100
	評価の特記事項					
テキスト	『デジタルナーシング・グラフィカ成人看護学(6):緩和ケア メディカ出版』					
参考書・教材	必要な資料は適宜配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業ガイダンス。 終末期の捉え方。 〔準備〕成人看護学概論で学んだ終末期の概要について復習しておくこと。(1h)					
2	終末期にある対象者の身体的・心理的特徴の理解。 終末期にある対象者の意思決定とコミュニケーション技法。 〔課題〕テーマについて復習して置いて下さい。(1h)					
3	スピリチュアルケアの基盤となる考え方を理解できる。 スピリチュアルペインの理解。 終末期にある対象者とその家族の援助方法の理解。 〔課題〕テーマについての学習を基に自己の考えをまとめておいて下さい。(1h)					
4	事例を通して終末期医療を考える(がん患者を対象として) 《アセスメント、看護上の問題、看護目標》 〔準備〕事例を事前に渡しますので、よく読んで対象者の理解を深めておいて下さい。(1h)					
5	事例を通して終末期医療を考える(がん患者を対象として) 《アセスメント、看護上の問題、看護目標》 〔課題〕不足している箇所について追加・修正しておいて下さい。(2h)					
6	終末期にある対象者に対するチーム医療の必要性と理解。 看取りのケア。臨死期のケアについて。 〔準備〕チームに属する可能性のある職種について学習しておいて下さい。(0.5h)					
7	ディベート(安楽死・尊厳死) 〔準備〕語句の意味を明確にしておくこと。 自己の思いを表現できるようにまとめておくこと。(1h)					
8	まとめ 〔課題〕終末期にある対象者の看護における看護師のストレスについて自己の考えをまとめておいて下さい(2h)					
時間外での学修	毎回の講義を振り返り、終末期看護に対する考えを深めていってください。					
受講学生へのメッセージ	終末期を自己の問題として捉えることができるようになることを望みます。 特別な配慮が必要な学生は教員まで申し出てください。 オフィスアワー:別途お知らせしますが、基本的には在室であれば対応します。					

【NS】病態生理学		看護学科		3年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
教員	佐々 敏						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	病院検査技師・33年						
授業内容	病態生理学とは重要な疾病の成り立ちとその病態整理を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的良好にみられる疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。						
到達目標	知識・理解	看護師に必要な病態生理学を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。			○		
	技能	図や表から病態生理に関連する内容の理解ができる。			△		
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題レポート		60	5	5	-	70
	学習成果の自己評価		-	10	-	20	30
	合計(点)		60	15	5	20	100
評価の特記事項	試験は課題に対するレポート提出で行います。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	必要な資料は配布します。						
参考書・教材	『疾病のなりたちと回復の促進【2】病態生理学』 医学書院						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	循環器疾患の病態と治療 I [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
2	循環器疾患の病態と治療 II [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
3	呼吸器疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
4	消化器系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
5	腎泌尿器系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
6	内分泌系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
7	免疫系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
8	血液系疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(4h)						
時間外での学修	予習・復習に努めて下さい。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。特別な配慮が必要な学生は申し出て下さい。オフィスアワーは佐々研究室、金曜日の16:00~17:00にきてください。						

【NA】看護研究		看護学科		3年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	我部山 キヨ子・馬場 貞子・松波 美紀・井倉 一政・緒方 京・古田 桂子・松原 薫・御田村 相模・安藤 洋子・北 恵都子・鍛原 直美・酒井 和美・野網 淳子・長谷川 真子・吉川 美保・戸村 佳美・中川 潔美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	臨床助産師・看護師勤務10年以上（我部山）						
授業内容	臨床の現場で行う看護研究の内容を理解し、学生が臨床で行う看護活動や健康行動などを題材にしてデータ収集から発表までの一連の過程を体験する。本授業により、研究テーマの絞り方、文献検索、研究計画の立案、データ収集、発表資料の作成、発表までの一連の研究過程の流れを体験し理解する。						
授業方法	最初は講義形式で、看護研究の概要、方法論等を学ぶ。次に演習形式で研究テーマの選び方、研究計画の立案、研究データの収集、解析、論文作成を行い、最後にグループの成果物の発表を行う。						
到達目標	知識・理解	聞き手が興味を持つ研究テーマを選択できる。			○		
	思考・判断・表現	研究データを収集し、解析し、可視化して自分の主張を裏付ける客観的資料を作成、論文を作成できる。			◎		
	技能	客観的資料を基に、聞き手が納得する発表資料を作成できる。			△		
	関心・意欲・態度	聞き手が興味を持つ研究テーマのデータを、データの性質に合わせて、自ら収集できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	研究テーマの立案		10	-	-	-	10
	文献検索とレビュー		15	-	-	-	15
	データの収集と分析		-	15	10	-	25
	論文作成		-	20	-	10	30
	発表資料の作成		-	15	-	5	20
合計(点)		25	50	10	15	100	
評価の特記事項	グループでの研究論文、発表資料（PC原稿と発表原稿）を各一部作成し、グループの成果物として提出する。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 基礎看護学(4)：看護研究 メディカ出版』						
参考書・教材	授業中に提示する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	看護研究の目的、意義、歴史						
2	看護研究のテーマの絞り方 [準備・課題]自分の興味があるテーマについてレポートにまとめる(2h)						
3	文献検索と文献レビュー [準備・課題]上記テーマについて文献を調べてレポートにまとめる(6h)						
4	グループワーク、研究のテーマや今後の方針を協議する						
5	研究のデザインと研究計画書 [準備・課題]テーマに合わせた研究方法について調べる(4h)						
6	研究成果のまとめ テーマなどに合わせてグループ分け [準備・課題]研究論文の書き方について学修する(2h)						
7	グループワーク、研究のテーマの確定、文献レビュー、今後の方針を協議する						
8	データ分析1（エクセルの使用法） 40人ずつで行う [準備・課題]出題に対してエクセルを用いてレポートを作成する(3h)						
9	効果的なプレゼンテーションのために（パワーポイントの使用法） 40人ずつで行う [準備・課題]出題に対してパワーポイントを用いてレポートを作成する(3h)						
10	グループ演習						
11	グループ演習						
12	グループ演習、論文のまとめ						
13	グループ演習、論文のまとめ						
14	グループ演習、論文のまとめ						
15	研究成果の発表 [準備・課題]研究論文をしあげる(10h)						
時間外での学修	看護実践および健康に関する疑問の中でデータを収集できて、かつ聞き手が興味を持ちそうなテーマを選択してください。 看護実践および健康に関して疑問に思う内容、例えば男子学生と女子学生の健康への取り組みの違い、年齢による認識の違いなどを講義までに考えておいてください。						
受講学生へのメッセージ	皆さんが看護ケアを行うときに、ケアの効果を評価し、高めるなど、対象の生活の質を向上させるために役立ちます。看護が必要とするデータや資料をまとめて解析する能力を学びましょう。 オフィスアワーは15:00～16:00、場所はI-313研究室です。 特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出て下さい。						

【NA】総合看護論		看護学科		3年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	我部山 キヨ子・佐々 敏・馬場 貞子・井倉 一政・緒方 京・御田村 相模・安藤 洋子・大澤 伸治・鍛原 直美・酒井 和美・野網 淳子・吉川 美保					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	臨床助産師・看護師勤務10年以上（我部山）					
授業内容	専門基礎科目・専門科目・発展科目を振り返り、既習内容を概観するとともに新しい知識や現在の課題について発展的に学びます。全領域の教員がオムニバス形式で担当し、国家試験対策も含めて講義を行います。学生自身が、知識がどの程度身につけているかを確認するとともに、思考を整理し、不足を補う機会となるよう教授します。					
授業方法	講義形式で進める。					
到達目標	知識・理解	各科目・領域で求められる基本的な知識・技術を理解できる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	100	-	-	-	100
	合計(点)	100	-	-	-	100
評価の特記事項						
テキスト	『従来使用している教科書全般』					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	解剖生理学・病態学 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
2	病態学・薬理学 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
3	基礎看護学：看護の基礎となる概念、基礎看護技術 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
4	看護管理、看護倫理、医療安全 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
5	成人看護学①成人期における健康の保持増進、クリティカルケア [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
6	成人看護学②慢性期看護、がん看護、機能障害別看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
7	成人看護学③機能障害別看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
8	在宅看護論：訪問看護の制度、在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
9	老年看護学：老年看護の特徴、保健医療福祉制度 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
10	小児看護学①成長・発達と健康増進のための看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
11	小児看護学②健康障害のある小児と家族の看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
12	母性看護学①ライフサイクル各期における看護、法律・制度 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
13	母性看護学②周産期における看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
14	精神看護学：主な精神疾患と看護、法制度 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
15	災害看護・公衆衛生：災害サイクルと看護、公衆衛生と看護 [準備・課題] 質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
時間外での学修	国家試験に向けての学習を進める中で、不明瞭な点を整理しておく。 各講義終了後には必ずその日のうちに学習内容の復習をする。					
受講学生へのメッセージ	卒業前の最後の科目です。自主的に取り組み、問題解決・弱点克服の場としてください。 オフィスアワーは各担当教員の時間（別途通知）とします。 特別な配慮が必要な学生は、担当教員に申し出て下さい。					

【NA】看護統合実習		看護学科		3年後期			
		2単位	必修	実習	90時間		
教員	馬場 貞子・古田 桂子・安藤 洋子・大澤 伸治・北 恵都子・野網 淳子・北村 美恵子・栗原 美和・戸村 佳美・水上 和典・中川 潔美						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
実務家教員	馬場 貞子(病院看護師・40年)・古田 佳子(病院看護師・10年)・野網 淳子(病院看護師・7年)						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場での実習を通して看護チームの一員としての役割を理解し、看護実践能力を身につける。</li> <li>病院組織における看護部の位置づけと役割・責務について理解し、病棟管理の実践を学ぶ。</li> <li>生涯にわたり看護師としての成長のために必要な要素を学ぶ。</li> </ul>						
授業方法	大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習。						
到達目標	知識・理解	病院組織における看護部の組織と機能、さらに病棟管理の実際について理解する。			○		
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の対象の多様なニーズに対して、優先順位と時間間に配慮しながら看護援助の計画を立案できる。</li> <li>実習を振り返り、チーム医療の中で看護の果たす役割と求められる連携のあり方について考えを述べることができる。</li> <li>看護職の果たす役割と責任について考え、事故の課題を明確にすることができる。</li> </ul>			○		
	技能	複数の対症の多様なニーズに対して、チームメンバーと協働して看護援助を実践できる。			○		
	関心・意欲・態度	対象を尊重し守秘義務の厳守、主体的な実習の取り組みかぎできる。また、指示された時間や方法に則って行動できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録		25	25	-	-	50
	看護実践		-	-	25	-	25
	カンファレンス参加状況		-	-	-	5	5
	実習態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		25	25	25	25	100
評価の特記事項	統合実習要項の評価項目によって実施する。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 看護の統合と実践(1)：看護管理』医学書院 看護の統合と実践[1]看護管理』メディカ出版・医学書院						
参考書・教材	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理』医学書院 看護管理および受け持ち患者への援助に関連するもので、これまでの講義・演習・実習で使用した教科書、参考書、配布資料、その他必要な文献						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	1. 実習時期 実習期間 2週間  2. 実習内容 1) 病院実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>病院および病棟における看護管理の実際の説明を受け、病棟における管理の実際を見学する。</li> <li>チーム医療における看護の役割と責任に着いて学ぶ</li> <li>看護チームに参加し、病棟の看護活動および看護の継続性について見学する。</li> <li>受け持ち患者2名の優先順位を考慮した援助を実施する。</li> </ul> 2) 学内実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>実習初日：看護管理に関する基礎的知識取得のため、課題学習をグループワークで実施、その成果を発表し全体で共有する。 実習施設ごとに事前準備と学習</li> <li>実習最終日：グループ・カンファレンスおよび事前学修課題の更なる学びをグループでまとめ発表し全体で共有する。</li> </ul>						
時間外での学修	看護を組織・管理の視点から学習することで、テキストや参考書を読んで理解を深めてください。複数の患者に援助を実施します。既習の看護過程の展開を十分復習し、事前に技術練習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	本実習は3年間の学びの総括です。これまで学修を振り返り、主体的に自ら責任を持って行動することを期待します。質問や相談等がある場合は、早めに担当教員に報告・連絡・相談してください。オヒスアワーとしては、各実習場所の担当教員が対応します。科目担当教員に相談や質問があるときには、前もって連絡を入れてください。(場所、時間は適宜決定します。)						